

「原稿の書き方」

書式：

原稿は縦長 A4 判用紙横書きとし、原則として Word などのソフトウェアを用いて作成する。1 行 25 字、1 ページ 30 行とし、上下に約 3cm、左右に約 4cm の余白をとる。フォントは MS 明朝体とし、英数字は Times New Roman とする。

原稿は 1 ページ目に、表題、筆頭著者名（・第 2 著者名・…）、著者所属、所在地、連絡先 E メールアドレスを書く。

2 ページ目に英文で、Title、First Author (, Second Autor, ...)、Institution、Address、Email Address を書く。

所属変更の場合には、1 ページ目（和文）と 2 ページ目（英文）の著者名の右肩にアスタリスクをつけ、現所属を脚注として、それぞれ 1 ページ目と 2 ページ目の下段に配置する。

例：野生太郎^{1*}

1 野生大学

*現所属 野生研究所

3 ページ目に、英文要約 (Abstract) と英文でキーワード (5 つ以内、アルファベット順) を書く。要約のなかには、略号や頭文字語 (Acronym) を用いないこと。

4 ページ目以降から本文、注、引用文献、表、図の説明、図の順に配列する。

謝辞があれば、本文の末尾に書く。助成金などを明記したい場合には、謝辞のなかに含める。

原稿には、各ページ下部中央に第 1 ページから最終ページまで連続したページ番号をつける。また、原稿の左側に 5 行毎に第 1 ページから連続した行番号を入れる。

区分け：

材料・方法・調査地、結果、考察などを区分けする小見出しは、上下の 1 行を空けて、下に波線をつけて中央に配置する。さらに細分する小見出しは上の 1 行を空けて、同様に波線をつけて左寄せとする。

注：

本文への注は、本文該当箇所の右肩に通し番号を (1)、(2)、(3) のように記し、本文と引用文献の間に一括して掲載する。

学名：

動植物名は初出の際に、和名に続けて括弧内に学名をつける。学名は下線を引く。民俗学・民族学などの分野で地方名 (vernacular name) や特殊な生物名を表記する場合にはこの限りではないが、なるべく学名に比定できるようにするのが望ましい。

イタリック：

本文中では、原則として学名以外はイタリック体を用いない。SD、SE、p、n（サンプル数）などもイタリックとしない。

人名：

アルファベット表記の人名は第1文字のみを大文字とし、ロシア語、タイ語などの人名は、標準的な方式にしたがってアルファベット表記にする。中国語の簡体字表記などは日本で用いられている漢字を用いる。

文献の引用：

本文中の引用は「鈴木・田中（1971）によれば・・・」、「・・・明らかにした（足立ほか1980）」、「・・・研究がある（Hoffman and Taber 1960, Geist 1970, Gray et al. 1975）」などとし、出版年の順にする。同一著者の引用を並べる場合も著者名を省略しない。著者名が3名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」と省略する。

印刷中の文献の引用は和文の場合は（印刷中）、英文の場合は（in press）として記載し、投稿中のものは引用しない。

文献一覧：

著者と発行年の両方が明らかなものを引用文献に記載する。それ以外のものは注に記載する。

本文中で引用した文献はすべて列記し、引用していない文献は載せない。文献一覧は著者名のアルファベット順に配列し、著者が同じ場合には、単独の著者名を発表年の古い順にはじめに置き、第2、第3の著者名のアルファベット順であとに続ける。

すべて同一著者で同一年の場合は、本文中の引用順に、発表年のあとに a、b、c をつけて区別する。著者が複数の場合、日本語表記の場合は「・」でつなぎ、アルファベット表記の場合は「,」「and」でつなぐ。文献の配列は、以下の例にしたがう。

例：沼田 眞（1982a）

沼田 眞（1982b）【同一著者の場合、一などで省略しない】

沼田 眞・大沢雅彦（1980）【発表年は上記論文より古い、共著者がいるので後に配列する】

沼田 眞・依田恭二（1975）【発表年は上記論文より古い、第2著者のアルファベット順により後に配列する】

田中政則・高橋誠一・大塚敬子（1986）

王 祖望（Wang, Z.）・盛 和林（Sheng, H.）【中国語表記の場合、名前の直後にアルファベットの綴りをつけ、その順に配列する】

文献は形式から（1）学会誌、（2）単行本、（3）単行本及び論集のなかの章、の引用に分けられる。欧文・和文を問わず、雑誌名は省略しない。また Ibid などの省略もしない。単行本で特定の箇所を引用す

る場合には、「単行本及び論集のなかの章」と同様にページ数を明記する。欧文雑誌名と欧文単行本書名は下線を引く。文献一覧は以下の例にしたがう。

(1) 学会誌

著者名 (発行年) 表題. 雑誌名 巻 (号) : ページ.

Authors (year) title. Journal title volume (issue): pages.

藤本征司 (1993) 1977 年有珠山噴火後の森林植生 14 年間の推移—特に高木類の対応パターン.

日本生態学会誌 43(1) : 1-11.

Ohsawa, M., D. Suzuki and J. Kawano (1990) An interpretation of latitudinal patterns of

forest limits in South and East Asian mountains. Journal of Ecology 78(2): 326-339.

(2) 単行本

著者名 (発行年) 「著書名」. 掲載ページ数, 発行所, 発行所所在地.

Authors (year) "book title". cited pages, publisher, place of publication.

畠山武道 (1992) 「アメリカの環境保護法」. pp6-8, 北海道大学図書刊行会, 札幌.

Leopold, A. (1933) "Game Management". Charles Scribner's Sons, New York.

(3) 単行本及び論集のなかの章

著者名 (発行年) 表題. 「著書名」 (編集者名), 掲載ページ数, 発行所, 発行所所在地.

Authors (year) Chapter title. In "Book title" (Editors), chapter pages, publisher, place of publication.

樋口広芳 (1984) 種分化と資源分割. 「現代の鳥類学」 (森岡弘之・中村登流・樋口広芳, 編), pp216-236, 朝倉書店, 東京.

Gray, A. J. (1991) Management of coastal communities. In "The Scientific Management of Temperate Communities for Conservation" (Eds. Spellerberg, I. F., F. B. Goldsmith and M. G. Morris), pp227-243, Blackwell Scientific Publications, Oxford.

(4) ウェブ情報

著者と発行年の両方が明らかなものを引用文献に記載する。それ以外のものは注に記載する。

著者名 (発行年) 「記事タイトル」 (URL) xxxx 年 xx 月 xx 日確認.

Authors (year) "title of web page". (URL) Accessed by yyyy-mm-dd.

農林水産省大臣官房統計部 (2017) 「平成 29 年度産麦類 (子実用) の作付面積 (全国) 及び収穫量 (都府県)」 (http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyo_kome/attach/pdf/index-33.pdf) 2017 年 11 月 6 日確認.

Alaska department of fish and game (2017) "2017 commercial salmon harvest summary". (<http://www.adfg.alaska.gov/index.cfm?adfg=pressrelease.pr10032017>) Accessed by 2017-11-06.

図：

図（写真を含む）は1点1枚とする。図は鮮明なもので、そのまま版下として使えるように、執筆者の責任で別紙に作成する（図表用の版下作成の必要が生じた場合には、執筆者が実費を負担する）。

既往の資料から作図した場合や既発表の図を転載する場合には、関係機関から許可を得たうえで、その旨を明示する（例：Harper（1975）より作図、川村（1982）より、など）。

図の別紙にはそれぞれ右上端に著者名と図の番号を示す。1点のみでも図1. とする。なおカラー図版にかかわる経費はすべて著者負担とする。図の表題は本文を読まなくても意味がわかるものとし、別紙にまとめて記載する。

表：

表は1点1枚とし、表題もあわせて記載する。表題は本文を読まなくても意味がわかるものとする。表は横線のみとする。1点のみでも表1. とする。なお、表が横に長い場合、印刷の向きを横にすることがある。

単位：

単位はメートル法とする。民俗学・民族学などの分野で尺貫法など、それ以外の表現を必要とする場合にはこの限りではないが、メートル法に比定できるようにするのが望ましい。